

多様性を知り共生社会の実現を。

－自分を大切にそして相手を大切に－

市内の中学校で行われた講演会で、講師が語ったのは「いろいろな人がいて、みんな違う」という、当たり前でいて見落としがちな事実でした。その言葉は、不思議なほど静かに、しかし確かに胸に残りました。私たちは日々、無意識のうちに「普通」や「当たり前」という物差しで人を見てはいないでしょうか。

「ちがいは、排除する理由ではなく、知ろうとする入口になる。講師の言葉は、そう語りかけているようでした。その気づきを自分の中だけに留めておくのではなく、共有したいと思い、今回の特集を掲載しました。多様な存在があつてこそ、社会は成り立っている。この特集が、読者の皆さんにとって「考えるきっかけ」となり、誰かの一步につながることを願っています。



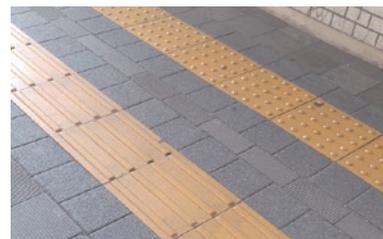
まちの中の「ちがい」 くらしの中の「ちがい」

同じ場においても、同じように感じているとは限りません。声をかけられてうれしい人もいれば、そっとしておいてほしい人もいます。

助けが必要なときもあれば、自分でやりたいときもあります。性別や障がい、ルーツといった違いだけでなく、年齢、経験、生活環境によっても、見える景色は変わります。誰かにとっての「当たり前」が、別の誰かにとっては、少し苦しいこともある。

誰かにとっての「普通」は、別の誰かにとっては、「普通じゃない」こともある。そうしたすれ違いは、決して珍しいものではありません。

だからこそ大切なのは、「分かってあげること」よりも、自分の感覚を大切にしながら、相手の感じ方をイメージしてみるることなのかもしれません。



－「大切にする」は、ひとつだけじゃない－

相手を思うあまり、自分の気持ちを抑え込んでしまうこともあります。一方で、自分を守るために距離を取ることも、時に必要な選択です。大切にする方法は、一つではありません。